

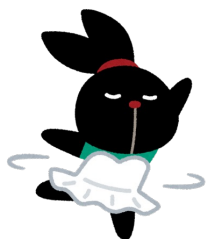
ACPについて

ACP(アドバンス・ケア・プランニング)という言葉をご存知でしょうか。日本老年医学会では「将来の医療・ケアについて、本人を人として尊重した意思決定の実現を支援するプロセスである」と定義されています。厚生労働省も、療養者本人による意思決定を基本として医療・ケアチームと話し合いが繰り返し行われることが重要であることを強調し「人生会議」という馴染みやすい言葉で啓発をしています。



病気をもちながら自宅で療養される方・その家族と日々関わる中でACPに触れる機会が多くあります。「治療をどこまで行いたいか」「医師からの説明をどのように受け止めているか」「最期はどこで過ごしたいか」など、今までの生活歴や背景・家族関係といった様々な要因が関係する事柄でもあります。ACPには4つのステップがあるとされています。

私がこの記事を書きました！



●看護師 牧野菜 (町屋事業所勤務)

看護師の牧野菜と申します。しもふりに入職して3年が経過しました。利用者さん・ご家族や多職種の皆さまとの関わりの中で多くの経験をさせていただき、日々学びを得ながら精進してまいります。

趣味はクラシックバレエで、幼少の頃より細々とレッスンに通い続けています。今後ともよろしくお願ひいたします。

ACPの4つのステップ

①意思形成 ▶ ②意思表示 ▶ ③意思決定 ▶ ④意思実現

① 意思形成

断片的に言葉として発せられる思いを拾う段階です。私たちが心にアンテナを張り、何気ない言葉から発せられるその方の考えや思いをキャッチすることからACPは始まっています。

② 意思表示

キャッチした意思の断片が組み合わされ、その方の価値観や信念・大切にしていることなどを表明してもらう段階です。こちらから確認する場合、意思表示してもらうタイミングが重要と言えます。例えば体調が悪化し生活に支障を来している時・介護する家族が負担を感じている時に確認することで、本人が考えを巡らせやすくなります。

③ 意思決定

表明した価値観などに照らし合わせながら将来の医療・ケアを選択肢の中から選んでもらいます。選択肢を提示するというのは専門職として重要な役割と考えます。

④ 意思実現

本人の意思を、関係者の意向や価値観の対立などに配慮しながら実現する段階です。人生の最終段階では本人が意思表示できない場合も多くあります。家族はもちろん、日々関わっているサービス提供者が密に連携し情報共有することで「本人を人として尊重した意思決定」が実現できるのではと考えています。

言葉でいうのは簡単ですが、色眼鏡をかけず身近なことからコツコツと取り組んでいきます。

参考文献:「ACP入門～人生会議の始め方ガイド～」西川満則・大城京子著

訪問範囲

荒川区・足立区・台東区・北区・豊島区・文京区にてサービス提供しております。



ステーション・サテライト 所在地

しもふり訪問看護ステーション

- 町屋事業所 荒川区町屋1-20-10 TK町屋ビル1F
- 駒込営業所 北区西ヶ原1-11-4 駒込K&Mビル B101

ステーション概要

ステーション名	しもふり訪問看護ステーション
事業所番号	1361890179
管理者	木下 亜矢子
スタッフ数	看護師 6名 理学療法士 3名 作業療法士 3名 言語聴覚士 1名 事務 1名 計 14名(2023年8月現在)

24時間対応

365日対応

町屋 TEL 03-6807-9172 FAX 03-6807-9182

駒込 TEL 03-6903-7995 FAX 03-6903-7996

◎ 営業時間 平日9:00~18:00

◎ 土・日を含む訪問もご相談に応じます。